



非核化への波

世界の世論が動かしている

昨年7月7日、核廃絶への大きな一歩となる「核兵器禁止条約」が国連で可決されました。核兵器の使用だけでなく開発、実験、製造、備蓄、移譲、威嚇を禁止する画期的なもので、現在各国で批准（国の主権者が承認する手続き）が進められています。

また核廃絶への取り組みをしてきた国際的なNGOの連合体「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞しました。

今年は朝鮮の板門店南北会談で「完全な非核化により、核のない朝鮮半島の実現という共通の目標を確認した」とする「板門店宣言」に南北が署名。半島の非核化が始まろうとしています。

まさに歴史的な転換です。これがそのまま実現されれば、単にそれは半島の平和だけではなく、北東アジアに劇的な変化が生まれます。もちろん様々な逆コースも出てくるでしょうし、アジアでの中国の存在がますます増大する懸念もあるでしょう。

しかし日本にとっては「戦後」が続いてきた最大の原因、日米安保条約に基づくアメリカの日本支配の継続の根拠が失われるわけです。



安保条約はサンフランシスコ講和条約と抱き合わせで同日に日本が調印させられたものです。押し付け憲法を叫ぶ人々がなぜか口をつぐんでいる屈辱的な条約で、沖縄に米軍基地が集中し、幾多の悲劇の根源になっています。その条約の根拠は朝鮮半島の戦争状態にありました。

自衛隊創設も同じです。当初の根拠は専らソ連脅威論でしたが、ソ連が崩壊すると、北朝鮮、中国に変わり、いまその北朝鮮が変わろうとしている。

日本を占領中の米軍が朝鮮戦争に出撃するために米軍の指令で作られた警察予備隊。それがいまは5兆円を超す国家予算を軍事費として費やす軍事力になっています。それらの根拠がいま消えようとしているのです。改めて日本国憲法の目指す「諸国民との協和」による平和を築く先頭に立ちたいものです。

おおたかの森駅宣伝と署名

7月9日(土)15:30~16:30

おおたかの森駅自由通路

それでも購入？ イージスアショア

あれだけ北朝鮮と中国の脅威を叫んで軍備拡張を強行してきた安倍内閣。国民にも危機を煽り、「武力攻撃事態」



を想定して住民保護や避難の訓練を実施してきた。非常事態を知らせるJ.アラートというシステムを開発した。しかしこれは誤作動ばかりでいまや誰も信じていないのではなかろうか。

今回の朝鮮半島の南北融和、米朝会談の進展で、政府はこの訓練は中止した。

ところがそれにもかかわらず一基1000億円もする米国製の武器イージスアショアを日本政府は言い値で2基も買い、秋田と山口に配備する予定。これはイージス艦といわれるハイテクのミサイル迎撃システムの陸上 (ashore) 配備版だ。ミサイルの発射を検知し追尾してミサイルで迎撃するというものだ。すでに自衛隊は8隻のイージス艦を保有。こちらは一隻1500億円。これだけで1兆円を超す。北朝鮮外交も武器購入もアメリカ言いなりか？

原水爆禁止の行動

ビキニ環礁での水爆実験を漁船が被爆という3度目の被爆の衝撃から始まった日本の核兵器禁止運動。被爆者救援の活動は様々なところでつづけられ、国連の核兵器禁止条約採択に繋がっています。

流山市では中学生も平和大使として広島を訪れています。

◎国民平和大行進

毎年取り組まれてきた平和行進。沖縄と北海道から歩き続けて広島、長崎までリレーして核廃絶を訴え続けています。

7月22日(日) 9:30

TX流山セントラルパーク駅前集合 →流山市役所
→南流山かえる公園まで行進

◎ピースサイクル

核廃絶、反原発などを自転車で走って訴え、野田、流山、柏、松戸などを訪れて市長を表敬訪問。あらかじめ提出した質問への回答をもとめ懇談。

流山市役所は7月12日(木) 10:15から

「福田村事件」を知っていますか？ その11

事件が伝わった地元香川では、村をあげて大騒ぎとなり、何日も泣き暮らしたといひます。被害家族のなかには、一家が絶えてしまうという悲惨な家もありました。

この事件の被害者は、被差別部落の人たちでした。香川県は日本でも一番面積が小さく、土地も持たなくて、行商にでざるを得ない事情がありました。もし日本人と気づきながら殺してしまったとしたら、行商という職業や、貧しい身なりに対する侮蔑と差別意識から「なんだこいつら」という意識がはたらいたのかもしれない。

被害者が被差別部落の人たちということで、マスコミもこの事件を取り上げることに躊躇したようです。被害者の出身地香川でも、被災者として取り上げた形跡がありません。

私は被害者がたまたま被差別部落の人だったというだけで、部落の人だったから殺されたのではないというスタンスをとり、部落問題に深く分け入って書くことはしませんでした。

現場は野田ですが、隣接している柏の田中村の人たちも加担しています。したがって厳密に言えば、「福田村・田中村事件」ということになります。犯人は逮捕され、裁判にかけられましたが、とてもおどろきなもので、服役から数年で大正天皇の死による恩赦で出獄しています。

2000年、香川県側によく「千葉福田村事件真相調査会」が発足し、同じ年に「福田村事件を心に刻む会」が発足。事件から80周年を迎えた2003年、悲願の慰霊碑が円福寺霊園内に建てられ、9月6日、除幕式が行われました。

辻野弥生（つづく）

3000万署名当分継続

5月3日の有明の集会で中間発表として1350万筆と発表されました。お手元にある署名は下記にお届けください。当初国会会期末を区切りとしていましたが、与党が「働き方改革」「カジノ」などの関連法を何としても通そうと会期延長をしたこともあり、当分継続することになっています。

引き続き署名に取り組んでいきましょう。

270-0111 流山市江戸川台東3-65-15 石林紀四郎気付

九条の会・流山

詩「私は生きている」

6月23日沖縄慰霊の日に中学三年生の相良倫子さんが朗読した自作の詩です。参列した人々やニュース、ネットで知った人々に大きな感動を与えました。1500字近いので途中省略してご紹介します。

私は生きている

相良倫子

私は、生きている。マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、草の匂いを鼻孔に感じ、遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。私の生きるこの島は、何と美しい島だろう。青く輝く海、岩に打ち寄せしづきを上げて光る波、山羊の嘶き、小川のせせらぎ、畑に続く小道、萌え出づる山の緑（中略）……

七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。

草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は、戦艦で埋め尽くされた。火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火薬の匂い。着弾に揺れる大地。血に染まった海。魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。みんな、生きていたのだ。

私と何も変わらない、懸命に生きる命だったのだ。彼らの人生を、それぞれの未来を。疑うことなく、思い描いていたんだ。家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。仕事があった。生きがいがあった。日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた、私と同じ、人間だった。それなのに。壊されて、奪われた。生きた時代が違う。ただ、それだけで。無事の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。悲しくて、忘れること

のできない、この島の全て。私は手を強く握り、誓う。

奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。もう二度と過去を未来にしないこと。全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、

あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。生きる事、命を大切にできることを、誰からも侵されない世界を創ること。平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。この島の美しさを。あなたも、知っているだろう。この島の悲しみを。そして、あなたも、私と同じこの瞬間（とき）と一緒に生きているのだ。

今と一緒に、生きているのだ。だから、きっとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。頭じゃなくて、その心で。戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。

平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きることだということを。

私は、今を生きている。

みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。

平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。

つまり、未来は、今なんだ。大好きな、私の島。誇り高き、みんなの島。そして、この島に生きる、すべての命。

私と共に今を生きる、私の友。私の家族。これからも、共に生きてゆこう。この青に囲まれた美しい故郷から。真の平和を推進しよう。（後略）……。

カンパはこちらの郵便振替口座へ
00130-5-464735 口座名 九条の会流山